

トヨタ自動車(愛知県)の河合満副社長(70)が11日、鹿角市のホテル鹿角で講演し、ものづくりに取り組み上での品質確保、手作業の重要性を語った。県内自動車部品メーカーの関係者ら約140人が参加した。

進化するものづくりテーマ

手作業の技能 大切に

トヨタ・河合副社長、鹿角で講演

河合副社長は中学校を卒業後、15歳でトヨタ自動車の訓練校「トヨタ技能者養成所」(現トヨタ工業学園)に入所。1966年の入社以来、約50年にわたり工場の生産現場一筋で仕事をしてきた。2015年に技能職出身で同社初の専務役員に抜てきされ、昨年副社長に就任した。



県北を中心に製造業関係者ら約140人が参加した講演会

講演のテーマは「モノづくりは人づくり」。河合副社長は、同社が9月に発表した2018年3月期連結決算で、純利益が日本企業過去最高の2兆4939億円となったことに触れ、「数字は出ているが全社に危機感がある」と説明。「自動車業界では今後、自動運転や電動化が進む。自分たちは100年に一度の大変革期という試練と熾烈な競争の真ただただ中にある。勝つか負けるかではなく、生きるか死ぬか、生き抜くためにどうするかという気持ちでいる」と述べた。

同社がさまざまな危機を乗り越えてきたことも紹介。09〜10年に米国を中心に発生した大規模なリコール問題を「最大の危機」と振り返り、「品質は会社の生命線だと実感した。品質をおろそかにしてお客さんの信頼を失ったら、二度と取り戻せない」と話した。

また、ロボット導入などにより生産現場の自動化が進む中でも、手作業を大切にすることの重要性を強調。「自動化を進化させるのは人。手作業ラインこそが技能の原点だ。技能と技術を連動させ、進化することが必要だ」と語った。

講演会は、県内の部品メーカーなどでつくるあきた自動車産業振興協議会と県北部テクノプラザ、鹿角工業振興会が主催した。

(木村織音)

自動車業界に挑戦を

一問一答

講演のため来県したトヨタ自動車の河合満副社長に、本県の自動車産業の可能性などを聞いた。

講演では手作業の重要性を強調した。本県のものづくりをどう見る。

秋田県は曲げわっぱなどの工芸品を手で作り上げる技術が素晴らしい。ノウハウを数値化すれば工芸品も自動で作ることが出来るかもしれないが、そうすれば手で作業する場面が減り、腕が衰える。手によるものづくりを大切にしたい。



かわい・みつる 48年愛知県生まれ。トヨタ技能者養成所卒。66年入社。本社工場鍛造部部長、副工場長を経て、17年から現職。

2012年に宮城県大衡村にトヨタ自動車東日本が設立された。本県でも自動車産業への参加が増えている。遠くから部品を運ぶコストが抑えられる。秋田で自動車産

業にチャレンジする企業がさらに増えるとうれしい。

トヨタグループに直接製品を納入する大橋鉄工が15年、トヨタグループのジェイテクトが昨年、それぞれ県内に関連会社を設立した。

2社とも地元などからいい人材を採用できた。自動変速機の部品を製造する大橋鉄工秋田(横手市)は今後生産量が増える見込み。ジェイテクトトヨタ開発センター秋田(秋田市)は自動車部品のソフトウェア開発に取り組みしており、Aターンの就職した技術者が多い。雇用面でも秋田に貢献できたのではないかと。

(聞き手)木村織音